

植物保護学特論演習 I (2単位)

担当者氏名 根岸寛光・篠原弘亮

◆学習・教育目標

植物保護学特論 II と一体の科目であり、これまでの学部の諸講義・実験・演習や卒論研究で得られた専門知識を一層深化させ、修士論文研究課題に関係するこれまでの国内外での研究成果の蓄積を整理して、独創的な研究展開に役立てると共に、読解力・文章力・発表力を磨く。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

病原学 発生生態 診断技術 防除技術

病原微生物と植物の相互反応

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	研究の現状把握(1)	植物病理学に関する研究について、これまでの進展状況を把握する	自ら行ってゆく研究について、これまでの研究成果の蓄積を十分に把握するとともに、その蓄積に基づいて今後の研究方向の展望を開く。授業実施に際しては、これまでの知識技術とともに、最新の情報についての検索を進め、それらについて指導教員からの助言等を受け、研究実施や発表の能力の向上に努める。
2	研究の現状把握(2)	植物病理学に関する研究について、最新の話題、技術、研究成果等の情報を取得する	
3	研究の現状把握(3)	植物病理学の中でも自分自身の研究分野についての知識・技法の蓄積状況を把握する	
4	研究の現状把握(4)	植物病理学の中でも自分自身の研究分野について最新の情報を検索し、指導教員等に開示する	
5	研究のあり方、進め方(1)	研究に用いられる手法について、既存のものとの現在のものとの比較検討する	
6	研究のあり方、進め方(2)	自分自身の研究にとって最適と思われる技法について検討を行う	
7	論文精読(1)	研究遂行に際して新たに取り入れるべき知識や技法について国内外の関連雑誌を検索する。	
8	論文精読(2)	検索された関連雑誌の掲載論文を精読し、研究方針策定の一助とする。	
9	論文精読(3)	関係する文献から得られる最新の状況と自らの現状とを比較検討し改善点を把握する	
10	論文精読(4)	関連する文献から得られた情報と自らの研究結果とを比較・見当し、データの正当性を確認する。	
11	中間発表の準備(1)	中間発表に必要とされる情報を整理する	
12	中間発表の準備(2)	中間発表に必要とされるデータ整理を行う	
13	中間発表の準備(3)	上記データに基づいて発表内容を精査する	
14	中間発表の準備(4)	精査された内容に従って要旨を作成する	
15	中間発表	要旨に従って口頭またはポスターでの発表を行う	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

Plant Pathology 5th ed./Agrios,G.N./Elsevier Academic Press (2005)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

植物病理学/大木 理/東京化学同人（2005）

植物病理学/眞山滋志・難波成任編/文英堂（2010）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

積極的なゼミへの参加と学会発表成果で評価する

◆オフィスアワー

原則として毎週月曜日午前 8:00～9:00。用件がある場合には事前に連絡を取ること

◆その他受講上の注意事項

学内外で開催される日本植物病理学会 EBC 研究会ワークショップ、日本農薬学会農薬生物活性研究会シンポジウム、日本植物防疫協会シンポジウム、報農会シンポジウムなど、植物病理学に関係する学術集会等への参加およびその内容に関するレポートを義務づけることがある。
